

登録コード	HM219102	開講年度	2026				
授業題目	母子保健学演習 C					担当教員	中山 佳子
英文授業名	Practice in Child and Women's Health Science C					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・ 5 時限 月曜・ 6 時限	対象学生	母子保健学ユニット / 1 年次
講義室				授業形態	演習	備考	選択科目
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素					(授業の達成目標)	
	2026HM保健学分野加, 2025HM保健学分野加, 2024HM保健学分野加, 2023HM保健学分野加						
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力					母子保健学領域において、対象者が抱える健康問題に対して、エビデンスに基づく十分な知識を前提に研究課題を見出し、適切な研究手法で研究を遂行することができる。	
(2)詳細 /Detailed information	母子保健学、特に小児保健学の領域に関する研究課題について、文献の講読を通して批判的思考を養い、データの収集と分析能力を身に着ける。自ら研究課題を選定し、研究遂行する能力を涵養する。						
(3)授業の概要 /Overview of course	母子保健学の中で特に小児保健に関して臨床現場から生じた疑問を研究課題に発展させるため、国内外の文献を講読し、ディスカッションを行う。						
(4)授業計画 /Course plan	日時は受講学生と検討の上、決定する。研究の進捗により所要時間は異なるが、項目ごとに指導時間に加え、相当程度の事前事後の自主研究時間を要する。 第1～5回：文献講読を行いつつ、研究テーマの決定を行う。 第6～10回：研究を行うためのデータの収集・分析方法に関するディスカッションを行う。 第11～15回：研究計画を完成させ、プレゼンテーションを行う。						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	毎回の授業における学生の理解度と研究に対する姿勢に関して、以下の基準を用いて評価を行う。 () 問題点の抽出が適切である。 () 問題点の背景を説明できている。 () その問題点にどのような課題があるのか指摘できている。 () それらの課題に対して既存の学説などが提示する解決法を適切に把握できている。 () そのうえで自分の見解を提示できている。 () から () のうち、3項目できていれば「水準にある」(可)、4項目できていれば「やや上にある」(良)、全て満たしていれば「かなり上にある」(優)、全て満たしたうえで、さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」(秀)						
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書 /Notes/Prep and review work/Textbook(s)/Reference work(s)	事前学習：次回の授業に関する課題を毎回課す。 事後学習：前回の授業内容に関する質問を毎回行う。 授業前後に1時間程度の自己学習を行うこと。						
(7)質問,相談への対応/Questions and requests for advice	メールを含めて随時受け付ける。 中山佳子：ynaka@shinshu-u.ac.jp						
(8)授業の形式 /Course format	研究テーマに応じ、講義、プレゼンテーション、ディスカッションを行いながら進めていく。						